

永井先生からのメッセージ No.11

～元小学校の先生から保護者の皆さんへ～

2023年7月14日(金) 野毛山幼稚園

【 自立 と 依存 】 元小学校教諭 永井 裕

▶2023年3月。歓喜に沸いたWBC。その中で一躍、脚光を浴びたメイトバー選手。彼とご家族の様子を目にしながら、私は、次のような教えを思い出していました。

- ◎子どもの自立とは、甘えや依存を排除していくことではない。
- ◎親が自立を急がせると、自立ではなく「孤立」にさせてしまう。
- ◎本当に自立している人は、必要な依存を受け入れ、自覚し、感謝している。自立しているからこそ、親密な関係を保てる。

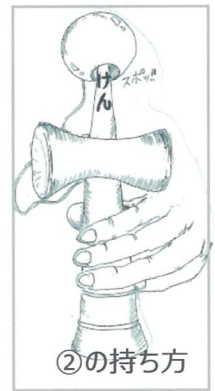
▶あくまでも私の印象ですが、このご家族からは、「べたべたした関係」「依存に溺(おぼ)れた関係」は感じられません。むしろ、『幼少期・親の愛情・どっぷり体験』を強く感じます。……ということで、『どっぷりつかる②』、先月の続きです。



【どっぷりつかる②～カッコいいへの憧れ～】

▶保護者の皆さんには、それぞれに「カッコいい」と思うものがあるかと。「～ファン」「～マニア」「～推し」etc.

▶私は常々、この「カッコいい」という言葉には不思議な力があると思ってきました。たとえば、小学校において「カッコいい6年生になろう」という投げかけは、理由や理屈ぬきに、とても効果的だった記憶があります。



「カッコいい年長さんになろう。」 ちょっと、分かりにくいかな？

「カッコいいソーラン節にしよう。」 これなら、分かりやすいかな？

▶「カッコいい」に憧れ、ソーラン節にどっぷりつかる。すると、身体の中に「やる気」や「粘り強さ」が貯まる。すると、その貯まったエネルギーが、次の「カッコいい何か」に向かって発揮されていく。この繰り返し中で、『自立』の土台が造られていく。

▶「カッコいい」の対象は、無数にあると思います。年中さんも年少さんも、「やってみたいな」と思うことに、どんどん挑戦して行ってほしいです。

▶朝ドラ『らんまん』。草花の中にカッコいいを見つけ、その世界にどっぷりつかった人物の物語。「カッコいいへの憧れ」と「どっぷり」が自立の土台となり、人生の軸となる。とても素敵な生き方だと思います。

